

# 「大麻」に群がる企業たち、ビールからペット用品まで！

ダイヤモンド編集部 相馬留美：記者

特集 グリーンラッシュがやってくる

2019.11.11 5:45 有料会員限定

いいね! シェア Tweet B!



Photo:REUTERS/AFLO

大麻といえば、日本では覚醒剤に並ぶ違法薬物の代名詞だ。しかし海外では、医薬品をはじめ食品や日用品など幅広い分野で、鎮痛作用などを伴う大麻由来成分を含んだ製品の販売が拡大している。そして実は、日本にもその波「グリーンラッシュ」は来ているのだ――。特集「グリーンラッシュがやってくる」(全5回)の#1は、海外の大麻産業の現状をお伝えする。(ダイヤモンド編集部 相馬留美)

## 大麻由来成分「CBD」が 楽天でも買える？

「高濃度CBDオイル」「フルスペクトラムCBD」――。楽天市場やYahoo!ショッピングで「CBD」の名前を付けた商品が日常的に売られている。

何の変哲もないオイルなどに見えるが、このCBDとは正式名称をカンナビジオールといい、実は大麻から抽出された成分だ。つまり「大麻製品」なのである。

大麻といえば、日本では覚醒剤に並ぶ違法薬物だ。なぜそんなものに由来する製品が堂々と販売されているのだろうか。

その理由は、大麻の含有成分にある。

大麻には、ハイになる成分以外にもさまざまな成分が含まれているのだ(詳しくは11月12日(火)配信の特集第2回「大麻が含む夢の成分『CBD』の効果とは?気になる法制度も解説」で解説する)。



Yahoo!ショッピング(上)や楽天市場(下)にずらりと並ぶ大麻由来商品

次のページ

なぜ「大麻」に企業が群がっているのか? >

## アクセスランキング

- | 1時間 | 昨日 | 1週間 | 会員 |
|-----|----|-----|----|
| 1   |    |     |    |
| 2   |    |     |    |
| 3   |    |     |    |
| 4   |    |     |    |
| 5   |    |     |    |
| AD  |    |     |    |
| AD  |    |     |    |

韓国GSOMIA破棄へ、文政権の暴走で日米が被る損害を元駐韓大使が警告

🔒 全国銀行員の平均年収ランキング2019、全国87行を一挙公開!

センスの悪い人が選ぶ「ダウン」はこれ!

観光で行きたい都道府県&市区町村ランキング2019【完全版】

50代で大金を一度に投資する「運用病」が増加している理由

小田急電鉄、ヤマハ発動機が取り組むイノベーション創出とは

【特別対談】先端に行く「AIコンサルティング」の可能性に迫る

ランキング一覧

## 特集

有料会員限定

5G大戦

グリーンラッシュがやってくる

トヨタ、ホンダ、日産 自動車の最終決断

ウェブサイト価値ランキング2019

中国で5Gの未来を見てきた。ジャーナリスト高口康太リポート

海外子会社の小さな不正も見逃さない! A | 監査のインパクトとは[AD]

特集一覧

## 最新記事

アップルウォッチ、心臓疾患探るのに有効=米研究グループ

GDP7-9月期年率+0.2%、4期連続プラス成長 内需けん引の構図続く

# 「大麻」に群がる企業たち、ビールからペット用品まで！

ダイヤモンド編集部 相馬留美：記者

特集 グリーンラッシュがやってくる

2019.11.11 5:45 有料会員限定

いいね! シェア Tweet BI

まず、最も多く含まれる成分はテトラヒドロカンナビオール（THC）である。嗜好用大麻であるマリファナにはこのTHCが多く含まれており、これが人をハイにする作用を及ぼす。

一方、THCの次に多い成分がCBDだ。CBDには炎症を鎮めたり、不安を和らげたりする作用がある。また、がんや老人進行性疾患、統合失調症、自閉症などの治療に有効であるというエビデンスも海外では出始めている。

実は、大麻草の一部の部位は大麻取締法に抵触しない。そのため、日本で売られているCBD製品は、海外の産業用大麻（米国の場合、THC濃度が0.3%以下のもの）のうち、日本で違法とされていない部位から抽出されたCBD製品、またはCBD原料から日本で加工された製品なのである。

## 食品、飲料、化粧品、サプリ…「グリーンラッシュ」に踊る人々

「一発当てるなら今です。グリーンラッシュなんですから」とある化粧品業界関係者は興奮気味に話す。

大麻製品が日本で売られていることだけでも衝撃なのだが、欧米ではこのCBDを巡るビジネスがヒートアップしている。こうした大麻産業の爆発的な拡大は、往年のゴールドラッシュやシリコンラッシュになぞらえて、「グリーンラッシュ」と呼ばれている。

CBDの効果が米国で広く知られるようになったのは2013年。重度てんかん患者にCBDを投与したことで発作が治まったという内容をCNNテレビが放送したことがきっかけだった。米国では14年農業法で研究目的での産業用大麻が合法化され、18年農業法では産業用大麻の大規模栽培も認められるようになった。米国ではCBDが農業法上で合法になったのである。

加えて17年11月に世界保健機関が、「CBDによる向精神作用の効果や依存、乱用の可能性は確認されていない」という報告書を出した。簡単にいうと、CBDの「安心・安全」宣言である。

そして18年にはCBDを含む治療薬「エビディオレックス」が、大麻由来の治療薬として初めて米食品医薬品局（FDA）の認可を受けた。同時期に医療用大麻の製造・販売を行うカナダ企業のティルレイが、大麻メーカーとしては米国初のIPO（新規株式公開）を行い、大麻関連銘柄への投資も過熱した。

## 大麻解禁の流れがCBDビジネスを後押し

### CBDを巡る世界の主な動き

| 年        | 国など          | 出来事                          |
|----------|--------------|------------------------------|
| 1948年    | 日本           | 大麻取締法を施行                     |
| 60年代     | イスラエル        | THC、CBDの発見                   |
| 70年      | 米国           | 規制物質法を導入                     |
| 90年代     | イスラエル<br>その他 | カンナビノイドの受容体の発見               |
|          | イスラエル<br>その他 | 内因性カンナビノイドの発見                |
| 96年11月   | 米国           | カリフォルニア州で医療大麻が合法化            |
| 2012年11月 | 米国           | コロラド州、ワシントン州で嗜好用大麻の所持・使用の合法化 |
| 13年8月    | 米国           | 重度てんかん患者のCBD摂取事例をCNNが放送      |
| 17年11月   | 国連           | WHOがCBDの安全性を認める              |
| 18年10月   | カナダ          | 医療用大麻・嗜好用大麻が合法化              |
| 11月      | 韓国           | 医療用大麻が東アジア初の合法化              |
| 12月      | タイ           | 医療用大麻が東南アジア初の合法化             |
|          | 米国           | 産業用大麻が改正農業法（連邦法）で合法化         |
| 19年3月    | 日本           | 厚生労働省がCBDを含む難治性てんかん治療薬の治験を容認 |
| 7月       | 米国           | ニューヨーク市がCBD入り食品の販売を禁止        |



拡大画像表示

投資家が注目しているのは大麻製造・販売会社だけではない。CBDは「食品添加物」でもあるからだ。

食品添加物であれば、食品や飲料のみならず、サプリメントやスキンケア製品、ペット用品など、ビジネスの裾野は広い。

CBDを購入する人が求めているのは、不安の緩和や体の痛みの軽減、寝付きがよくなるといった効果だ。

日本で販売されているものは経口または塗布型のオイルやVAPE（パイプ、電子たばこ）タイプが多いが、海外では食品や飲料なども数多く販売されている。

製品の合法性について、米国では連邦法と州政府、規制当局で見解にばらつきがある。農業法上では合法だが、FDAではCBDは薬品扱いで、食品としては違法という見解だった。今年に入ってFDAがCBDの安全性や規制に関する公聴会を開くなどの動きも見られる。



海外のコンビニやショッピングセンターでもCBD製品が並ぶ。写真提供：日本カンナビジオール研究会

そうした規制はあれど、すでに海外の市場ではCBD製品が数多く出回っている。

CBDは味にあまり影響しないため、「CBD入り」と書かれたものにはチョコレートやポテトチップス、ジュース、水、アルコール飲料、コーヒーなどバリエーションが多い。中でも一番人気はグミで、カラフルに着色されたものがショッピングセンターなどに陳列されているのを目にする。

老若男女を問わず、ペットさえもターゲットになるため、あらゆるメーカーが注目しているというわけだ。

## ビール最大手インペブがノンアルコール飲料で参入 大麻関連企業への投資も続々

その結果、大麻企業と大手メーカーが競々と手を組み始めている。

18年12月、ビール世界最大手のベルギー企業であるアンハイザー・ブッシュ・インペブは、ティルレイに出資し、大麻成分入りのノンアルコール飲料を市場投入済みだ。米コカ・コーラも同分野への参入を模索中だという。

また「コロナ」ビールを販売する米コンステレーション・ブランズも、カナダの大麻製造・販売大手のキャンビー・グロースに出資した。

たばこ業界では、「マルボロ」で知られる米アルトリア・グループが、18年にカナダの大麻投資会社のクロノス・グループに18億ドルを出資した。

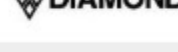
健康志向で停滞気味のアルコール産業やたばこ産業が、リラックス効果のあるCBDに飛び付いたというわけだ。

## 時価総額10億ドル超え企業が続出

### 主な大麻関連上場企業銘柄

| 社名     | オーロラ・カナビス                              | キャンビー・グロース                 | ティルレイ                        | GWファーマシューティカルズ                     | クロノス・グループ            |
|--------|--|----------------------------|------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| (英語表記) | Aurora Cannabis                        | Canopy Growth Corp.        | Tilray Inc.                  | GW Pharmaceuticals                 | Cronos Group Inc.    |
| 国      | カナダ                                    | カナダ                        | カナダ                          | 英国                                 | カナダ                  |
| 上場市場   | 米ニューヨーク証券取引所                           | 米ニューヨーク証券取引所               | 米ナスダック                       | 米ナスダック、英ロンドン証券取引所                  | 米ナスダック               |
| 売上高    | 1億8858万ドル                              | 1億7218万ドル                  | 4213万ドル                      | 1273万ドル                            | 559万ドル               |
| 営業利益   | ▲2億3907万ドル                             | ▲4億3895万ドル                 | ▲5765万ドル                     | ▲2億8880万ドル                         | ▲1377万ドル             |
| 時価総額   | 36.7億ドル                                | 70.0億ドル                    | 17.8億ドル                      | 42.0億ドル                            | 27.5億ドル              |
| 業種     | 医療用大麻の製造                               | 医療用大麻の製造・販売                | 医療用大麻の製造・販売                  | 医薬品                                | 大麻の生産販売企業への投資        |
| 解説     | 米コカ・コーラとの協業のうえに、カナダのコンステレーション・ブランズが出資。 | 酒類販売大手の米コンステレーション・ブランズが出資。 | スイス・ノバルティス傘下の薬局事業大手、サンボスと提携。 | がん疼痛治療薬「サティス」で有名。大麻製薬と共同研究している時期も。 | たばこ大手、アルトリア・グループが出資。 |

\*時価総額は2019年11月5日時点  
\*売上高と営業利益は、オーロラは19年6月期、キャンビーは19年3月期、ティルレイとクロノスは18年12月期、GWは18年9月期



拡大画像表示

CBDの市場規模の予測はまちまちだが、25年には数百億ドル規模に膨らむという見方が大勢を占める。

カナダやオランダのような大麻容認国はもちろんのこと、EU（欧州連合）でエビディオレックスが承認されたことから、CBDについては効果効能を含めて徐々に認知が広がるだろう。海外でいち早く盛り上がるCBDによるグリーンラッシュが、日本に到来する日も決して遠くはなさそうだ。

大麻成分CBDは「夢の成分」なのか。リスクはないのか。特集第2回「大麻を含む夢の成分『CBD』の効果とは？気になる法制度も解説」（11月12日〈火〉配信）ではCBDとはどんなものなのか、知っておくべき基本を徹底解説する。

## アクセスランキング

| 1時間 | 昨日                                  | 1週間 | 会員 |
|-----|-------------------------------------|-----|----|
| 1   | 韓国GSOMIA破棄へ、文政権の暴走で日米が被る損害を元駐韓大使が警告 |     |    |
| 2   | 全国銀行員の平均年収ランキング2019、全国87行を一挙公開！     |     |    |
| 3   | センスの悪い人が選ぶ「ダウン」はこれ！                 |     |    |
| 4   | 観光で行きたい都道府県&市区町村ランキング2019【完全版】      |     |    |
| 5   | 50代で大金を一度に投資する「運用病」が増加している理由        |     |    |
| AD  | 日産自動車はなぜ、デジタル広告への投資を増やしているのか        |     |    |
| AD  | 直観を信じよ。テークドリブン時代で経営者に問われるチカラ        |     |    |

ランキング一覧

## 特集

有料会員限定

5G大戦

グリーンラッシュがやってくる

トヨタ、ホンダ、日産 自動車の最終決断

ウェブサイト価値ランキング2019

中国で5Gの未来を見てきた。ジャーナリスト高口康太リポート

デジタル変革にはこう取り組み！ 最初の一手を事例に学べ[AD]

特集一覧

## 最新記事

アップルウォッチ、心臓疾患探るのに有効=米研究グループ

GDP7-9月期年率+0.2%、4期連続プラス成長 内需けん引の構図続く

5G時代の商機はどこに？サブスク、遠隔操作、音の可視化、VR…

大麻ビジネスも「ガラバコス化」に陥った日本の残念な現状

働く女性に「メガネ禁止」の謎、ルーツは「社内結婚」促進のためか

最新記事一覧